

▲▼▲ 10月14日第51回クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

第51回クリエイティブサロンは東北文化学園大学(仙台)で開催されました。

2017年10月14日、仙台の国見の丘に位置する東北文化学園大学にて第51回クリエイティブサロンが地方で初めて開催された。東北地方の教育学部の学生を含め、高校・大学の先生方など参加者は、合計57名であった。筆者は幹事として東北文化学園大学の共催、会場の確保、学内ポスター作りや案内掲示などを担当した。「アクティブ・ラーニング」に関する創造性教育研究の最前線と題して「主体的、対話的、深い学びを学修する」ための講演会・ワークショップを行った。東北文化学園大学学長も最後まで参加され、多くの参加者に面白かったと言っていたこと、何よりも無事終了できたことが喜びであった。

具体的にはアクティブ・ラーニング推進者のトップランナーとしてご活躍されている岩手県立花巻北高等学校校長の下町壽男先生、アイデア創出トップリーダーのアイデアプラントの石井力重先生と、川喜田二郎先生「移動大学」の継承者 JAIST國藤進先生が東北文化学園大学にご参集され、講演およびワークショップが行われた。なお石井ワークショップの成果は、アイデアプラントのHPに公開されている。今後、今回のような地方開催のサロン成功事例が続出し、日本全国に展開できることを期待したい。

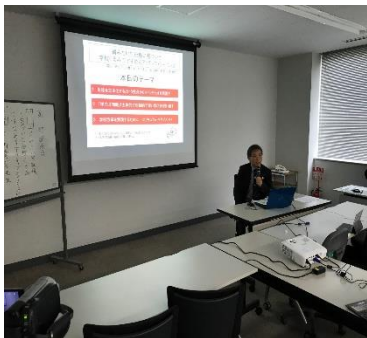
最後に、最初の企画段階から最後まで細部に亘りご指導を頂いた國藤理事と事務局の比嘉さんをはじめ、各地から駆けつけてくれた日本創造学会の関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

(記事：小出実)

下町壽男先生のご講演の概要

「育みたい生徒像に基づいた学校ぐるみですすめるアクティブ・ラーニング」

教育現場の中では、進学校を中心に大学受験のための教育と学習が中心に行われている中、高校生の教育のあるべき姿が問われています。「アクティブ・ラーニング」というテーマが与えられ、「主体的で対話的で深い学び」という教育方法が実践されている状況で、「なぜ、アクティブ・ラーニングなのか」という問題提起から始まりました。教科教育のような断片化された知識を教育しても、生徒には響かないことを将棋の対局を例に話していただきました。確かに、将棋の一手「矢倉囲い」のような盤面はイメージして記憶しやすい反面、羽生名人であってもアマのたらしめな盤面は浮かばないと言われているように、局面によってはイメージして記憶できません。生徒が経験したことをイメージとして思い浮かべやすい状況を作り出してから学習しなければ、学習成果が期待できないことの例でした。他にも、夢や目標の設定の仕方が教育には欠かせないことも経験として理解できる点でした。



下町壽男先生の講演



石井力重先生のワークショップ



國藤進先生の講演

石井力重先生のワークショップの概要

アイデアワークショップを得意とされる石井先生からは、「主体的、対話的、深い学習を達成するための方策」を、参加者からのアイデアとして引き出そうとするものでした。アイデアスケッチという方法を使って、絵心のない人でも簡単に絵を描くヒントをいただきました。さて、本題のアクティブ・ラーニングに関するアイデアが会場から出てきました。「古典落語を学びに生かす」「今日の授業をブログにする」といったアイデアは、実際の授業で生かされるものと期待しています。

國藤進先生のフィールドワーク教育の概要

「ミニ移動大学」は、W型問題解決学という方法論とKJ発想法を取り入れたもので、4日間の集中フィールドワークを中心とした地域創生プロジェクトの中で活用されています。今回は、フィールドワーク教育の成功要因について、事前準備や事後フォローアップのヒントをいただきました。また、大学院教育での実践例で、「住民の意識改革」「創造的問題解決の方法を学ぶ」といったことだけでなく、「高いデザイン思考」が教育効果をもたらした例として「夢醸」「もちもちカステラ」「イノシシ・レザー」の商品開発例をご紹介いただきました。

(記事：西浦和樹)